

2006年12月4日

社団法人日本動物園水族館協会
会長 小宮輝之様

要望書

時下ご健勝のことと存じます。

私たちは、「アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い」(略称 SAGA)の世話人をつとめております。本要望を提出するにあたり、まず、「大型類人猿」と、私たち「SAGA」についてご説明いたします。

大型類人猿は、チンパンジー(およびボノボ)、ゴリラ、オランウータンという、3 属 6 種に分類され、ヒトに最も近縁な生き物です。かれらは、CITES(サイティース、通称ワシントン条約)において、「絶滅の危機に瀕した種」として分類されています。ヒトはどのような進化をとげたのかを理解するうえで、これら大型類人猿の研究はきわめて重要です。野生の大型類人猿の生態について、日本をはじめ世界の研究者がこれまで研究を続けてきました。その研究成果は広く一般に知られていますが、熱帯林の伐採による生息地の減少、密猟、人間や家畜との接触による病気の感染などによって野生の暮らしそれ自体が脅威にさらされています。かれらがすみかとする熱帯林の部分的な地域での生息数調査の結果から、野生個体数は近年急速に減少していると推測されています。一方、飼育下での研究もおこなわれてきました。一般には、動物園でかれらの姿を見ることが出来ます。2006 年現在、日本にはチンパンジー352 個体、ゴリラ 29 個体、オランウータン 52 個体が飼育されています。

本会は SAGA と称します。「アフリカ・アジアに生きる大型類人猿を支援する集い(Support for African/Asian Great Apes)」の英文呼称の頭文字をとって SAGA(サガ)と略称しています。「サガ」は、英語では「たくさんのエピソードから成る長い物語」を意味します。チンパンジーについては、1986 年に、アメリカ・シカゴ科学院に世界中から結集したチンパンジー研究者が、「チンパンジーの自然保護と飼育のための委員会(略称CCCC)」を組織しました。SAGA は、その精神を受け継ぎ、1)チンパンジーだけでなくより広く大型類人猿全体を包括し、2)研究者だけでなくより広汎な人々を対象にした集いです。野生であるか飼育下であるかを問わず、また研究であるか否かを問わず、大型類人猿に関心をもってくださる方々にご参集いただき、その研究・飼育・自然保護の現状と将来について皆で考えようという集いです。サガは、1998 年 11 月 19 日に発足しました。その記念シンポジウムは、「アフリカ大型類人猿の研究・飼育・自然保護」と題して、愛知県犬山市で開催され、約 300 名の参加者がありました。招待講演者として、ジェーン・グドール(英国)、ヤン・ファンホーフ(オランダ)、アレクサンダー・ハーコート(米国)のお三方をお招きしました。国内については、研究者や動物園関係者だけでなく、製薬企業、関係省庁、自然保護活動団体、報道メディア、そして大型類人猿に関心をもっていた一般の方々に広く呼びかけ、参加していただきました。SAGA シンポジウムは、1998 年以来、毎年 1 回、11 月に開催されてきました。2006 年 11 月に、名古屋で第 9 回 SAGA シンポジウムを開催いたしました。これらの報告やお知らせについては、SAGA のウェブサイトをご覧ください。

SAGA のウェブサイト:<http://www.saga-jp.org/>

この地球上には数百万・数千万の生命が共存しています。彼らは、47 億年とも言われる地球の歴史を、われわれ人間とともに生き抜いてきました。その象徴が大型類人猿であり、かれらはいわば「進化の隣人」です。大型類人猿やテナガザル類、その他の霊長類、さらに系統的に離れた生命に思いをはせ、自然や環境に目を向けるのが、SAGA の活動のめざすところです。SAGA は、いわゆる専門家だけが集まる「学会」ではありません。一般の人々に開かれた、だれでも参加できる「集い」です。義務は何もありません。参加費も無料です。大型類人猿に関わる人々が、かれらに関心をもつ一般の方々とともに、その将来を考え、共

通する目標に向かって手を携えていく集いです。SAGA が掲げる目標は、発足シンポジウムにおいて「大型類人猿の研究・飼育・自然保護にかんする提言」としてまとめられた以下の3項目です。

- 1) 野生の大型類人猿とその生息域を保全する
- 2) 飼育下の大型類人猿の「生活の質(QOL)」を向上させる
- 3) 大型類人猿を侵襲的な研究の対象にせず、非侵襲的な方法によって人間理解を深める研究を推進する。

私たちは、人類と大型類人猿が共存・共生する未来は、人類共通の願いと考えています。貴協会におかれましても、日頃のご活動を通じて、この実現のために多大なご支援をいただいていることに対し、ここに私たちは感謝の意を表したいと存じます。

しかしながら、誠に残念なことに、貴協会所属の「カドリー・ドミニオン」で飼育されているチンパンジー「パンくん」および「市原ぞうの国」のチンパンジー「スマイル」のテレビ番組、また企業のテレビコマーシャル等への出演に関しまして、人類と大型類人猿の共存・共生に悪影響を及ぼしかねないと、私たちは懸念しております。

具体的には以下の三点です。

1) **「絶滅の危機に瀕した種」であるチンパンジーをテレビ番組のショーやコマーシャル出演に供すべきではなく、希少種の繁殖と研究、動物園における教育的展示の対象に限定すべきです。**

2) 放映されるチンパンジーの姿は、**過度な擬人化**がなされ、また、いたずらに滑稽な側面が強調されるなど、チンパンジーの本来の姿を大きく歪めるものです。サガの提言に掲げます、野生の大型類人猿とその生息域の保全には、世界最大の資源消費国のひとつであると同時に、国際的影響力の強い日本の人々の理解と協力が不可欠です。放映される内容によって、それを視聴する人々のあいだに**チンパンジーについて誤った認識が広められてしまうと**、人々がチンパンジーを含む大型類人猿の保全のために適切な行動をとることの妨げとなります。

3) ご存知のように、チンパンジーは私たちヒトと同様、豊かな心と高い社会性を備えた動物です。かれらの心身の健全な発達のためには、**幼少時から適切なケアが必要です。特に、母親や仲間の個体と共に生活させることは必須条件です。**しかし、番組やコマーシャルに出演するためには、チンパンジーは他個体からひきはなされ、長距離の移動や、不自然な姿勢や行動を伴う長時間の撮影など、心身に多大なストレスを被る状況におかれます。とくに、**未だ心身の成長過程にある幼少個体**をこうした状況に置くことは、彼らの健全な発達を妨げ、心身の健康および繁殖に重大な影響を及ぼすことは、過去のいくつもの事例や科学的研究成果から明かです。

貴協会におかれましては、どうか以上の三点をご理解いただき、該当する園館に対し、チンパンジーのテレビ出演の状況を早急に見直し、適切な改善を行なうようご指導して下さるよう、要望いたします。

今後とも、人類と大型類人猿の共存する社会の実現にむけ、変わらぬご理解とご支援をよろしく願います。

SAGA(アフリカ、アジアに生きる大型類人猿を支援する集い)世話人を代表して
京都大学霊長類研究所
所長 松沢哲郎